

綴り字の一般について

教

育ローマ字では、独自の規則に従って元となる現代仮名遣いのテキストを転写します。この文章では、原文を教育ローマ字に転写する際に必要な文字とその使い方を説明します。筆者： twitter.com/awesomenewways

想定される原文の綴り

転写されるテキストは、実在するテキストの場合と、想定された架空のテキストの場合があります。いずれの場合でも、それがどのように発音されるかについての想定がある必要があります。したがって、例えば、読み方が不明な記号を記載している文章を、読み方を不間にしたまま教育ローマ字に転写することはできません。

規則の中には「カタカナで書かれる場合」とか「漢字の境界」といった表現を含む、具体的な文字種の利用を想定するものがありますが、原文が実在する場合でも架空の場合でも、文字種の利用に関しては現代仮名遣いにおける一般的な綴りに従う、理想化されたものを想定します。例えば、「アクセント」という言葉は通常カタカナで書かれる言葉なので、もし何らかの理由で原文がひらがなであっても、教育ローマ字ではあたかもそれがカタカナで書かれているかのように処理をします。これは同時に、あえて一般的でない文字種を選ぶことによって何らかの効果を得ようとする文学的な表現は、教育ローマ字では再現しないことを意味します。

理想化された原文の綴りを考える場合には、現代の日本社会で何が一般的であるかということの他に、学習者が理想とすべき綴りは何かというような、教育的配慮を考慮に入れることもできます。もちろん、その場合でも、教育ローマ字は綴り字改革を意図したものではなく、また、「非母語話者のための合理化された現代仮名遣い」というようなものを考えるためのものでもないので、一般的な表記から逸脱するものを採用することはできません。

ただし、この理想化された原文の綴りにおける文字種は、約物をのぞき、漢字、ひ

らがな、カタカナに限定します。原文にこれら以外の文字がある場合は、算用数字は読み方にしたがって漢字、ひらがな、カタカナのうちのいずれかに直し、ラテン文字などそれ以外のものについても、同様に、読み方にしたがって漢字、ひらがな、カタカナのいずれかに直した上で教育ローマ字に転写します。

文字一覧

教育ローマ字では以下の文字を使います。

分節音

分節音は主に以下の字母を使います。

主な分節音の一覧

a, i, u, e, o, k, g, s, z, t, d, n, h, b, p, m, y, r, w,
xtu

教育ローマ字で使う主な分節音の一覧。転写元のテキストに応じて入力に必要な文字を使うので、これ以外の文字が使われることもある。教育ローマ字では母音の上のドットの有無に意味があるので、デフォルトではドットのある i ではなくドットのない i を使うことに注意が必要である。'xtu' は特別に1文字と数える。

転写元のテキストに応じて入力に必要な文字を使うので、これ以外の文字が使われることもあります。

この文字のうち、'xtu' だけは特別にこの3文字で1文字扱いです。最後に u が含まれていますが、この u を母音字に数えないためです。

分節音は、以下の制約に従うように綴ります。制約は上から優先順位が高い順に並んでおり、いずれかの制約を破らなければならない場合は、常に下位の制約が破られます。

分節音の綴りを定める制約のリスト

- A. 一般的な US 配列のキーボードで日本語をローマ字入力する場合に、その綴りから正しく原文をローマ字入力する方法を導ける
- B. 長音記号は '—' (em dash) と綴る
- C. 大文字のひらがな1文字は、ローマ字2文字以内で綴る
- D. 大文字1文字に「っ」を除く小文字1文字が続く部分は、
 - D.A.ローマ字4文字以内で綴る
 - D.B.ローマ字3文字で綴る
 - D.C.ローマ字2文字で綴る
- E. 「っ」が漢字の読みの末尾となる部分または文字種の境界の直前である場合は、
 - E.A.その漢字の単独での該当する音読みの最終音が「く」であり、かつ、その直後の文字が k から始まる漢字である場合、その「っ」は k を重ねることで綴る
 - E.B.その「っ」は 'xtu' と綴る
- F. 「っ」は直後の文字が子音字の場合はその子音字を重ねることで綴り、そうでない場合は 'xtu' と綴る
- G. 「ん」は 'nn' と綴る
- H. x と l のどちらか一方を使う必要がある場合は、x を使う

分節音の綴りを定める制約のリスト。制約は上にあるほど優先順位がたかく、いずれかの制約が破られなければならない場合は常に下の制約が破られる。

以下の表は推奨綴りを示したものです。

主なひらがなの推奨される綴り方

	a	i	u	e	o	ya	yi	yu	ye	yo	n
	あ	い	う	え	お	や		ゅ	いえ	よ	
k	か	き	く	け	こ	きや	きい	きゅ	きえ	きよ	
g	が	ぎ	ぐ	げ	ご	ぎや	ぎい	ぎゅ	ぎえ	ぎよ	
s	さ	し	す	せ	そ	しゃ	しい	しゅ	しえ	しょ	
z	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ	じや	じい	じゅ	じえ	じょ	
t	た	ち	つ	て	と	ちゃ	ちい	ちゅ	ちえ	ちょ	
d	だ	ぢ	づ	で	ど	ぢや		ぢゅ	ぢえ	ぢょ	
n	な	に	ぬ	ね	の	にや	にい	にゅ	にえ	によ	ん
h	は	ひ	ふ	へ	ほ	ひや	ひい	ひゅ	ひえ	ひよ	
b	ば	び	ぶ	べ	ぼ	びや	びい	びゅ	びえ	びよ	
p	ぱ	ぴ	ぷ	ペ	ぽ	ぴや	ぴい	ぴゅ	ぴえ	ぴよ	
m	ま	み	む	め	も	みや	みい	みゅ		みょ	
r	ら	り	る	れ	ろ	りや	りい	りゅ	りえ	りょ	
w	わ				を		ゐ		ゑ		
wh		うい		うえ	うお						
f	ふあ				ふお		ふい	ふゅ	ふえ	ふよ	
v	づあ	づい	づ	づえ	づお	づや		づゅ		づよ	
th	てや	てい	てゅ	てえ	てよ						

教育ローマ字における分節音の推奨綴り。macOS で正しく入力ができるように設定した後、一部の文字が Windows 10 で正しく入力できないことが判明したので、その部分を修正した。これはあくまで macOS を基本とし一部 Windows 10 の仕様を採用した推奨綴りであり、規則に従う限りこれ以外の綴りも用いられうる。特定の環境が想定される場合は、その仕様のいかんによって規則から導かれる綴りは異なりうる。

超分節音

超分節音は以下の記号を使います。

超分節音に関する記号の一覧

modifier letter vertical line	上つきアクセント記号
modifier letter low vertical line	下つきアクセント記号
modifier letter grave accent	上つき境界下降記号
modifier letter low grave accent	下つき境界下降記号
combining accute accent	上昇調の記号
combining dot above	ドット
question mark	疑問符
inverted question mark	逆疑問符

超分節音に関する記号の一覧。記号の右にある説明は、前者が Unicode におけるその記号の名前、後者が教育ローマ字における通称である。超分節音に関する記号のうち、疑問符と逆疑問符はピリオドと関連するため、約物の項でも取り上げる。

超分節音は現代仮名遣いにはない情報を扱うものであるため、日本語の韻律論について説明しなければならないので、詳細は省きます。各記号の意味の概略は以下のとおりです。

超分節音に関する記号の概説

- スペースから自身の直後のモーラまでの領域が nF (非下降) 区間であるような、semiword の特定の位置に与えられる素性のうち、表層形に実現するものを示す。
 - スペースからその直後のモーラまでの領域が nF (非下降) 区間であるような、semiword の特定の位置に与えられる素性のうち、表層形に実現しないものを示す。
 - その前後のモーラが共に nF である場合に、両モーラの間にピッチの有意味な落差が与えられるような統語的境界のうち、表層形にそのような落差が実現するものを示す。
 - その前後のモーラが共に nF である場合に、両モーラの間にピッチの有意味な落差が与えられるような統語的境界のうち、表層形にそのような落差が実現しないものを示す。
 - モーラの最終字母につき、疑問文の末尾以外において AP 末尾のモーラの内部でピッチが有意味に上昇するイントネーションを示す。
 - 母音につき、直前の母音との間に音節の境界があることを示す。
- ? 疑問のイントネーションを示す。
- ¿ 疑問文の末尾において、疑問のイントネーションがないことを示す。

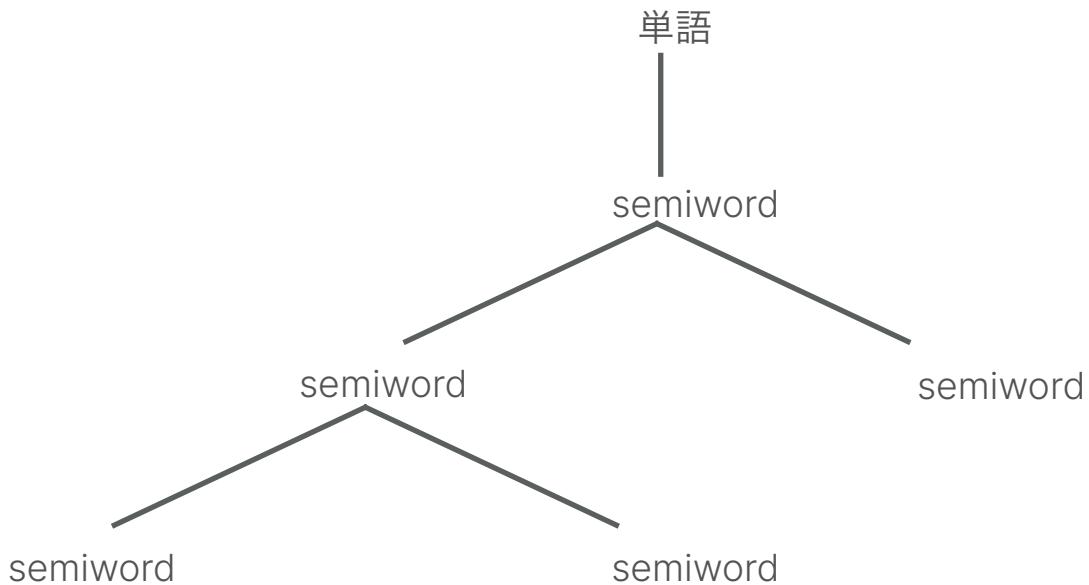
超分節音に関する記号の概略。詳細は別稿で取り上げる。

屈折記号

Semiword の中には、他の semiword と結びついて新たに semiword を構成するものがあります。この操作のことを「屈折」と呼びます。

屈折において、左側に位置する semiword を「語基」といい、右側に位置する semiword を「語尾」と言います。

Semiword の階層構造



单語はひとつ以上の semiword から構成される。Semiword は、ほかの semiword と結びついて、新たに semiword を構成する。この操作を「屈折」という。屈折の際に左側にある semiword を「語基」と言い、右側にある semiword を「語尾」という。

屈折のある semiword は「屈折詞」といい、屈折詞はとりうる語尾の種類によって「動詞」「形容詞」「名詞」「時名詞」「形容名詞」の5種類に分類されます。

Semiword の分類

自立詞	屈折詞	動詞
		形容詞
		名詞
		時名詞
		形容名詞
	非屈折詞	

付属詞

Semiword の分類。Semiword のうち、アクセントがあるものを自立詞と言い、ないものを付属詞という。自立詞のうち、屈折のあるものを屈折詞と言い、ないものを非屈折詞という。屈折詞は、屈折の際にとりうる語尾の種類によって、動詞、形容詞、名詞、時名詞、形容名詞の5種類に分類される。この5種の分類を品詞という。

屈折詞の綴りには、屈折記号と呼ばれる特別な記号が使われることがあります。これらは屈折詞の綴りの中に特別に与えられるもので、semiword の分節音の並びやその他の音韻論上の特徴によって一般的に予測することはできません。

屈折記号の一覧

- middle dot
- hyphen minus

屈折記号の一覧。記号の右にある説明は、前者が Unicode におけるその記号の名前、後者が教育ローマ字における呼称である。

屈折記号は、屈折の規則の中で綴りの書き換えに関係します。また、最終的に導かれる綴りにも残り、単語の構成を視覚的にわかりやすくする役割を果たします。（最終的に導かれる綴りにおいて、屈折記号は語尾と語基の中間付近に現れるようになっています。）Middle dot と hyphen minus の間には機能の違いはありませんが、わかりやすさのために、semiword の属するグループごとに、どちらの記号が使われるかが決まっています。

約物の綴り

約物は以下の記号を使います。分節音における場合と同様、転写元のテキストによつては、これ以外の記号が用いられることもあります。

Table 4 約物の一覧

.	full stop	ピリオド
,	comma	カンマ
[left square bracket	開きブラケット
]	right square bracket	閉じブラケット
?	question mark	疑問符
¿	inverted question mark	逆疑問符
/	solidus	スラッシュ
	space	スペース

約物の一覧。記号の右にある説明は、前者が Unicode におけるその記号の名前、後者が教育ローマ字における通称である。

これらの記号は、以下の規則に従って用いられます。

約物の綴りの規則

- 鉤括弧は '[' (left square bracket) と ']' (right square bracket) で綴る
- 平叙文の句点は '!' (full stop) と綴る
- 読点は ';' (comma) と綴る
- comma のあとはスペースをひとつ開ける
- question mark または full stop から次の文までの間にはスペースを2つ開ける
- question mark または full stop の直後に鉤括弧閉じがある場合は、間にスペースを開けずに right square bracket を置き、その後に次の文が続く場合はスペースを2つ開ける
- 疑問文は、疑問のイントネーションがあるときは、末尾に ? (question mark) を置き、full stop を置かない
- 疑問文は、疑問のイントネーションがないときは、末尾に ; (inverted question mark) を置き、full stop を置かない
- 中点は '/' (solidus) と綴る
- 転写元のテキストに必要な場合はこれ以外の記号も用いられる。その場合、一般的なUS配列のキーボードで日本語をローマ字入力する際の綴りに従う。

約物の綴りの規則。原文を正しく入力できなければならないという制約は分節音における場合と同様である。

ドット

ドットは、様々な規則によって母音の上につけられる記号です。

「ドットをつける」というとき、その操作の結果として母音字が次の表の右の状態になっていることを意味します。同様に、「ドットを外す」というとき、母音字が左

の状態になることを意味します。

Table 5 母音字のドットがついた状態とドットが外れた状態

a á

i í

u wu 直前に子音字がある場合はドットつきでも u のまま。

e é

o ó

母音字のドットがついた状態とドットが外れた状態。「ドットをつける」というときは、その操作の結果として母音字が右の状態になっていることを意味し、同様に、「ドットを外す」というときは、その操作の結果として母音字が左の状態になっていることを意味する。ドットがついた母音字にドットをつけても状態は変化しないし、ドットが外れた母音からドットを外しても状態は変化しない。子音の直後に u があるときに限り、u はドットがついた状態と外れた状態の区別がない。

ドットの規則は、特別な定めがない場合について semiword の綴りを規定するものです。Semiword の分節音の綴りを得た後、規則を上から順に適用して書き換えていきます。その semiword について他の場所で綴りが定められている場合は、その綴りに従います。

なお、semiword の中には屈折があるものがあります。屈折の処理は、semiword の綴りを確定させた上で行い、その中で綴りがさらに書き変わることがあります。

Semiword のドットの規則

1. au, ae, ao, ia, iu, ie, io, ua, ue, uo, ea, eu, eo, oa, oe の後部となる母音には、前部のドットの有無を問わず、ドットをつける
2. カタカナで書かれる部分は、全ての母音連続について、後部の母音にドットをつける
3. 母音連続が文字種（漢字・ひらがな・カタカナ）の境界を跨いでいる場合、後部の母音にドットをつける
4. 母音連続が漢字の境界を跨いでいる場合、後部の母音にドットをつける
5. 一段動詞の最後の母音にドットをつける
6. 五段動詞の最後の母音が è または i である場合、そのドットを外す
7. 'ou' または 'ei' がそれぞれ [オウ], [エイ] と発音される場合、後部の母音にドットをつける
8. [ワ], [エ] と発音される 'ha', 'he' は、母音にドットをつける
9. 連続する二つの母音について、アクセントを理由としてその二つの母音が重音節を形成していないと考えられる場合、後部にドットをつける
10. ドットのない母音が3個連続している場合、3つ目の母音にドットをつける処理を左から順に行う

Semiword のドットの規則。特別な定めのない semiword に適用して、分節音の綴りに含まれる母音のドットの有無を書き換えるもの。上から順に規則を適用していく、全ての規則を適用したときに綴りを確定する。